

大道芸アジア月報 2019 年 10 月

Vol. 30, no. 10

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット(土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント)

- 大阪・天保山海遊館広場 ■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場
 ■ヨコハマ大道芸 (山下公園、グランモール公園、ジャックモール) <http://daidogeij.jp/> ■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/>
 ■東京都ヘブナーアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/ ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
 ■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html> ■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

仙台れきみん秋まつり 11月3(日) 11:00~15:00 観覧無料
 大沢田植え踊り、秋保・長袋の田植え踊り・川前の鹿踊剣舞との共演
 問合せ 022-259-3956 (仙台歴史民俗資料館)

★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/> ○千葉ポートシアター (京葉線「千葉みなと」駅下車)

- 1月より連日(火・水は休演) 開演時間は要確認
 ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンส์。
 ジャグリングには、森田智博、ボンバンダー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演
 問合せ・電話 050-5238-3533 (イーストバジョン公演事務局)

△たかまつ大道芸フェスタ 2019 <https://www.machikadomusic.net/2019/08/24/たかまつ大道芸フェスタ2019/> ○香川県高松市

- 10月5(土) 12:00~19:00 街角の大道芸 (丸亀町一番街前ドーム広場、片原町西武商店街三越丸亀輪場、丸亀町スクエア前、ほか)
 10月6(日) 11:00~19:00 港の大道芸 (高松シンボルタワーデッキスガレリア、JR 高松駅前広場、ほか)
 加納真実、HIBI★Chazz-K、芸人まこと、STILTANGO、SUKE 3&SYU、中国雑技芸術団、松本かなこ、紙磨呂、せせらぎ、Juggler Laby、シルヴブレ、
 うつしおみ、桔梗ブラザーズ、Witty Look、Syan、〈特別出演〉SU/SoLA Fire Dance ほか

△頭とロ×デフラクト「妖怪ケマメ」<https://www.kaat.jp/d/kemame> ○K.A.A.T 神奈川芸術劇場 (大スタジオ)

- 10月5(土) 12:00&17:00 / 6(日) 12:00&15:00
 出演 渡辺尚、ギョーム・マルティネ
 一般¥3000 (ペア券¥5000)、当日¥3500
 問合せ 0570-015-415 (チケットかながわ)

△集まれ! 池袋みんなの大道芸 <http://www.geigeki.jp/performance/event247/> ○東京都芸術劇場前広場

- 10月5(土) 6(日) HARO、めりこ、森田智博、聖寿
 ●10月26(土) 27(日) STILTANGO、WITTY Look、空車軌道、加納真実
 ●11月2(土) 4(月) アルジェントさーかす、JULOT、せせらぎ、THE CHIPOLATAS
 ●11月3(日) 中国雑技芸術団、JULOT、せせらぎ、THE CHOPOLATAS

△しながわ水辺の刊行フェスタ in 八潮 ヘブナーアーティスト 1day ジャック ●品川区八潮

- 10月6(日) <https://shinagawa-kanko.or.jp/event/mizubenokankoufesta/>
 EPPAI&マサトモジャ、サンキュー手塚、マリナパルーン、鈴木拓矢、ココナッツ山本、TOKYO 雑技京劇団、ゼロコ

△女性による民俗芸能の継承「乙女文楽」<http://www.puppet.or.jp/puppetArchives/entryarchive/otome1012.html> ○国立劇場小劇場

- 10月12(土) 14:00
 出演: ひとみ座乙女文楽 演目: 「二人三番叟」 「本朝二十四孝 奥庭狐火」 「近頃河原の達引」 堀川猿廻し
 ¥3000
 問合せ 044-777-2228

△第21回フェスタ虎御前 2019 <http://torasho.sakura.ne.jp/wp/> ○滋賀県長浜市宮部町虎姫生きがいセンター

- 10月14(月祝) 三雲いおり、ココナッツ山本、DemaToid、ゼロコ、Clown ノン、路地裏トッシー

△ギリヤーク尼ヶ崎新宿公演 <https://ja-jp.facebook.com/Gilyakamagasaki/> ○新宿三井ビル 55 ひろば

- 10月14(月祝) 昭和53年よりつづけてきた場所で、89歳の大道芸人が踊る

△東中野ムーンロード秋祭り <http://moonroad.jp/> ○東中野ムーンロード

- 10月19(土) 綾乃テン、とりさん、演奏家の狂喜、をちこ、狼執事、大道芸人ジーニー

△世田谷アートタウン現代サーカス「地上の天使たち」<https://setagaya-pt.jp/performances/20190710angels.html> ○世田谷パブリックシアター

●10月18(金) 19:30/19(土) 15:00/20(日) 15:00

カンパニー ルーブリエ、ラファエル・ボワテル

大人¥4000、子ども(4歳~高校生) ¥2000 (友の会、および、せたがやアーツカード会員割引あり)

問合せ 03-5432-1515 (世田谷パブリックシアター)

△世田谷アートタウン三茶 de 大道芸 2019 <http://arttown.jp/> ○世田谷区・三軒茶屋かみい

●10月19(土) 20(日)

JULOT、THE CHIPOLATAS、中国雑技芸術団、TOKYO 雑技京劇団、アストロノーツ、荒木巴、アルジェントさーかす、オジロス、okk、加納真実、芸人まこと、cocochi-kit、ココナツ山本、コバヤシユウジ、四家卯大、松鶴家天太、suke3&SYU、STILTANGO、セクシーDAVINCI、ゼロコ、大駱駝艦、知念大地、チャラン・ポ・ランタン、NAO&WAGAN Brothers、博雅会、ひこひこ、Funny Bones、ブラックエレファント、松本かなこ、フェイスペインター ユキ、館細工小島政美、キャロライン、MIEL、天才イカレポンチ、ほか

(10月20日のみ) フレディーノ、和田静男、BLU-NAZI、

△第42回大須大道町人祭 <http://www.ohsu-gei.net/> ○名古屋市・大須観音境内、大須商店街かみい

●10月19(土) 20(日)

中国雑技芸術団、ホワイトアスパラガス、山本光洋、乙女文楽・吉田光華、セミストリート、Performer SYO!、鷹島姫乃、シルヴブレ、坂本頼光、フェイスペインター☆ミホウ、油井ジョージワンマンバンド、伊藤祐介、アイドルユニット OS☆U、KANAO、izuma、ちんどん通信社、りずむらいす、ダメじゃん小出、Mr.BUNBUN、石原耕、デカルコ・マリイ、大駱駝艦、火付盗賊、あやつり人形・上條充、筑前琵琶・川村旭芳、サンキュー手塚、三雲いおり、桔梗ブラザーズ、パーバラ村田、Syan、パントマイムプロレス、がんじすいんだすどーだす、しろみときみ、四畳半劇場・南條まさき、スーパーコミック歌舞伎・ハラプロジェクト、フラメンコ・DANZAK、ボーイズグループ・COOL-X、池田洋介、un-pa、大須太鼓、スコビルズ、X-HALL、カナルベキノワ、おいらん道中、萩原遼プロデュース、天平桔梗ブラザーズ特別公演

△亀戸大道芸 2019 vol.8 ○亀戸十三間通り商店街

●10月20(日) 12:30~16:00

△ヘブンアーティスト TOKYO <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/heavenartist/> ○上野公園

●10月25(金) 26(土) 27(日)

本年度のヘブンアーティスト合格者を含む、約130組のパフォーマー、ミュージシャンが出演

△サカハロ大道芸フェスティバル <http://sakae-halloween.com/daidougei.html> ○名古屋市若宮広場・パルコほか栄地区

●10月26(土) はやとんぬ、めりこ、3ガガヘッズ、KARAKI、サンキュー手塚、山本光洋、CHIKI、

●10月27(日) Entertainer Hi2、こ〜すけ、油井ジョージワンマンバンド、小林智裕、ザキー岡、しょごーむじょーブラザーズ、りずむらいす、
26(土) 27(日) PESTRICA、Mr.Kids、アストロノーツ、しろみときみ、たかくみえ

△大道芸ワールドカップ in 静岡 <https://daidougei.com/> ○静岡市 駿府公園、呉服町通り、ほか

●11月1(金) ~4(月・祝)

アダム&ベンジャミン、アニ クーパー、チャーリー ケーパー、ケイト&パシイ、デュオ ルーキー、デュオ ユニティ、フェーブル キーヴマン、ル モルデヴズ、ロレンツ マストロピエトロ、ミズキ シナガワ、クアトロ ストンプ、ザ コレクター、ワイズ フールズ、ケロル、池田洋介、Izuma、KANAO、加納真実、紙磨呂、桔梗ブラザーズ、サクノキ、ZANGE、Syan、シルヴブレ、スピンスター、SEOPPI、ゼロコ、ダメじゃん小出、張海輪・中国雑技王、DemaToid、to R mansion、performer SYO!、ファニーボーイズ、ホワイトアスパラガス、まわりみち、Mr.BUNBUN、めりこ、望月ゆうさく、山本光洋、吉川健斗、りずむらいす、渡辺あきら、アノニマ テアトロ、デュオ パデュー、ジェシカ アルバン、ロミーナ ミッシェルティ、ジェンガ金次郎、ノームズ、ビッグルーツ、ブランコ、油井ジョージワンマンバンド、キッサー、松本かなこ、チームパフォーマン斯拉ボ、アートパフォーマー☆ファイター☆、ラストラダカンパニー、人宿町やどりぎ座×あそ viva! 劇場、青宙ノート、アヤチーガル、王子菜摘子、clown ものまる、Crazy Queens Cat、健山、サムライパフォーマーズシン、ジャグラーKentaro、大道芸人ジニー、ジャグリングドラゴンヒョウガ、大道芸人ハンド、チンヤ、ナニコレ? 劇団、ニュートラッド、はんべす、ぼくゆう、マジ大道芸人HAMAR、めぐみ梨華、ヨーヨーパフォーマー TAKE Iguchi、リスボン上田、わっしょいゆーた、

△姫路サマルノリ教室「ウリカラ」第1回公演 ○姫路市花の北市民広場大ホール

●11月2(土) 14:00

韓国民族芸術団クンドゥル、晋州クンドゥルブナムル団、昌原クンドゥルブナムル団

翌日(11月3・日) 相生市営東部墓園内「相生平和記念碑」前で、供養演奏

問合せ: 079-290-5522 (姫路労音)

△見世物学会 ○東京芸術大学美術学部

●11月4(月・祝) 14:00

テーマ「人型の記憶—逸脱と異形」

第一部・講演・坂入尚文、第二部・シンポジウム(青木茂・小沢剛・川井ゆう・坂入尚文・和田修・藤井秀雪)

主催・見世物学会、協力・日本玩具学会表象遊戯学研究会

△江東区で会いましょう♪vol.2 https://twitter.com/koto_aimashow/ ○江東文化センター

●11月4(月・祝) 11:30~17:00

△みんなであそぼ! 森と劇場のサーカスフェスタ ○練馬文化センター小ホール、平成つつじ公園

●11月4(月祝) https://www.neribun.or.jp/event/detail_n.cgi?id=201908141565759395

若林正の

食って極楽

戸田市のおしゃれ(?)ランチ

・・・戸田公園・TK バーガー

我が家から一本道路を隔てた戸田市。狭くて人口も多い蕨市と違って領土(?)は広く、人口も適正。競艇はあるし、工場や倉庫やでかい会社もあるし。で、税収も豊かなのだろう。道も広いし、公園も整備されてキレイで羨ましい…。

と、僻み根性丸出しだが、ホント、コジヤレた店が多い。今回の「TK バーガー」も駅から離れてるけど、国道近くで病院や幼稚園、公民館が目の前という立地で、人通りは駅前以上。主婦やファミリー狙いで繁昌してるハンバーガー屋だ。昼前に行ったが、広い店内のテーブルはすでに半分近く奥様方らしき女性でうまっている。値段はマ○クの 3～5 倍。一番安いバーガーで¥600! 迷ったが奮発してオススメという看板メニューの TK バーガー¥1000 を注文した。

テイクアウトで単品のつもりが、コーヒーとピクルスのセットがプラス¥300 でお得と言われて頼んでしまう。女房と二人分で結構な出費だ。帰宅して早速、かぶりつく。アボカド、目玉焼き、ベーコンにチーズ。肉は 100g のパテで食べ応えがあるし、しっかり風味のある肉々しいビーフで美味。そこそこ満足感はあるが、食後冷静になるとやはり高いなあと後悔が…。我が家はおしゃれに縁の無い貧乏性だと改めて思い知った。

○ハンバーガーはマ○クで充分度＝4ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 335

「阿波木偶箱まわしの会」について

上島敏昭

9 月 21 日、徳島市国府町、芝原地区のむつみ祭に招かれた。今年で 31 回目になるというから、ちょうど平成元年からやっている地域まつりである。今年は、主催者でもある、地元の三番叟まわし（阿波木偶箱まわし保存会）、猿まわし（猿舞座：筑豊大介・お猿の鉄平）、放下芸ほか（浅草雑芸団：上島敏昭・由紀）、地元の小学校の金管バンド、地元中学校の合唱、支援学校の太鼓、障がい者施設の阿波踊りなどが出演することになっており、猿まわしと私たちは、その翌日も障がい者施設「眉山園」の催しにも出てほしいと言われていた。

20 日の午後、徳島駅に到着すると「阿波木偶箱まわし保存会」の中内正子さんが迎えにきてくださっていた。大荷物と一緒に、われわれも車に乗り込んで芝原に向かう途中、運転しながら中内さんが言う。

「明日も明後日も台風に当たってしまうて……。明日はもう雨やから、児童館のなかでやることにしたんです。公園にテントも準備したやけど……。もうこの時期はいつも天気心配で……」。昨年は中止にせざるを得なかったという。

まあ、仕方がないでしょねなどと話すうちに、到着。いわゆる公民館である「むつみ会館」に入って、保存会の顧問である辻本一英さんに到着の挨拶をすると、私を見るなり、ひとこと、「昔は若かったなあ」。

ついこのあいだ、7 月に国立劇場の「祝福芸」公演に箱まわしが出演したおりにお会いしたばかりなのに、昔ってどういうこと……。「？」の顔をしている私に、辻本さんは言う。

「ほらあ、そこに大きな絵があるんよ」
その視線の先を見ると、会館の玄関から二階へ上がる階段の脇壁に、畳一枚分ほどの絵が飾られていて、そこに描かれているのは、まぎれもない私の姿だった。簡易和装に頭巾をかぶり、篠笛を吹いている。その後ろにお猿さんがいて、これではまるで私が猿遣いだ。ほとんど等身大の自分の姿に、思わず「あれえー」と声を上げてしまった。たぶん 20 年ぐらい前、猿まわしの村崎修二さんとはじめてここに来たときの姿であろう。なるほど、辻本さんはこの絵と現在の私とを比べたのかと納得した。考えてみれば、この芝原にも何度か呼んでもらっているし、保存会ともいろんなところでご一緒させてもらっている。

◆「門付け芸の世界」公演

私が、はじめて彼らと会ったのは、大阪の人権博物館「リバティおおさか」の「門付け芸の世界」と題する催しだった。2000 年 1 月 29 日のこと。私は、猿舞座の村崎修二さんに同行してこの催しに参加させてもらった。

参加者は、猿舞座(村崎修二&お猿の安登夢と私)と伊勢万歳(村田清光さんと中川晃さん)、そして阿波の木偶まわしだった。まだ「保存会」を名乗る前で、『箱廻し「三番叟」「えびす舞」を復活する会』と称しており、辻本さんがリーダーで、メンバーは中内さん、南さんの現在のコンビ以外にも数人いらした。それぞれが実演し、さらに座談会をおこなうという内容で、マニアックな催しながら、300 人ぐらいのホールは満員だった。

このとき彼らは、門付けのかたちと、舞台芸のかたち、二つの人形舞わしをみせてくれた。記憶はあいまいだが、どちらも「えびす舞」と称していたように思う。門付けの形は、現在の「三番叟まわし」と同じもので、担い棒の両端にそれぞれ人形を入れた箱を提げて登場し、三番叟とえびす人形を舞わす。ご祈祷の文言が長く、同じご祈祷的な語りでも万歳の村田社中の声が明るく朗々と巧みな節まわしを披露して芸能性が高いのに対し、こちらは儀式性が高いと感じた。もう一つの舞台芸の形は、舟形の簡易舞台と波が描かれた幕を使用し、最後にえびすが鯛を釣るというもの。えびすが釣竿を投げる前に、撒き餌と称してお菓子を客席にたくさん投げ入れという、サービス精神旺盛な芸能で、おおいに受けていたのを覚えている。

このメンバーでの座談会は、門付けの先達である村田さんの存在が圧倒的で、その体験談を、ほかの人たちが寄ってたかって、ひたすら聞くというような内容になったのではなかったか。そのとき辻本さんたちは師匠の門付けに同行させてもらっていると話していた。師匠というのは伝統的な人形を舞わせて家々を祝福する門付け芸人としては最後の老人で、翌 2001 年の門付けを最後として引退する。伝統的な人形の門付けという芸は彼らのおかげで、かろうじてつながったのである。2002 年からは彼らだけで門付けを継続させてきた。当時から中内正子さんが主になって人形を使ってい



たが、師匠は女性が人形を使うことに対しての違和感が強く、なかなか人形に触れさせてもらえなかったとも話していた。

◆「阿波木偶箱まわし保存会」

この公演からしばらくして、中内さんと南さんが、それまでの仕事を辞めて、本格的に人形まわしに取り組みはじめたと聞いた。人権啓発の催しのほかにどのくらい仕事があるのか、それだけで生活できるのだろうか、などと私はいらぬことを考えたものだ。しかし、それからは新聞、雑誌、テレビのニュースなどさまざまな媒体に取り上げられたり、NHKをはじめとして時代劇にもしばしば登場したりと、活躍の場はどんどん広がり、芸能としても評価されていった。

それ以降の発展のあらましを、今回の催しのパンフレットから引用しておく。

〈「阿波木偶箱まわし保存会」：阿波木偶「箱廻し」や「三番叟まわし」をはじめ、徳島県独自の無形文化財の調査研究を目的として、1995年に発足。1999年、東みよし町の三番叟まわし芸人に弟子入りし、正月の門付けに三年間同行して技術と回壇先を受け継ぐ。2002年から師匠の門付け先を受け継いで回壇する。2019年には、千軒あまりの家に福を届けた。また「えびすまわし」「大黒まわし」などを伝承、国内外で公演活動を行う。

2006年 徳島新聞賞「文化賞」

2009年 ユネスコ「ACCU賞」、徳島県「阿波文化創造賞」

2017年 サントリー地域文化賞

2019年 国立劇場に出演〉

とある。また、同会のリーダーである辻本一英さんは、人権啓発運動の活動家でもあり、地域文化の調査研究の途上で収集した「阿波木偶の門付け用具 163点」は、2009年に国の登録有形民俗文化財に指定されている。その功績により、2016年には、文化資料の蒐集および博物学研究の業績を顕彰する水木十五堂賞を受賞している。

ここには記されていないが、同保存会と辻本さんの努力が実をむすび、「阿波木偶・三番叟まわし」は、2015年に、徳島県無形民俗文化財指定となった。現在では、文字通り、阿波踊りとならぶ徳島県を代表する郷土芸能となっている。

2015年10月、県無形民俗文化財に指定された機会に徳島県博物館で「阿波木偶箱まわしの世界―門付け、大道芸」と題された展覧会が行われた。

その図録には1999年、師匠に弟子入りしてから2015年の文化財指定までの活動年表が掲載されている。これによれば、はじめは「箱廻し『三番叟』『えびす舞』を復活する会」と称していたが、リパティおおさかでの公演の翌年、「阿波木偶箱廻しを復活する会」に改め、さらに2012年、現在の「阿波木偶箱まわし保存会」に改称させている。この名前の変更は彼らの活動の展開にも大きくかかわっているように思う。

まず「復活」から「保存」への変更。おそらく継承者もなく廃絶同然だったので「復活」と称したのだろうが、その後、師匠に弟子入りして、技術も檀家も、その精神も受け継いだという自信から「保存会」と改めたのだろう。

「箱廻し『三番叟』『えびす舞』」から「阿波木偶箱まわし」への変更。さきほども書いたが、2000年当時、いま「三番叟まわし」と称しているものも「えびす舞」と言っていたように思う。いずれにせよ、人形での門付けや大道芸を四国ではさまざまな呼び方をしていた。ばくぜんと「人形まわし」あるいは「デコまわし」、箱を担ってくるから「箱まわし」、使用する人形から「三番叟」「えびす」「大黒」などなど。こんなに人形が多いのは、そもそも徳島県が全国でもとびぬけた人形芝居好きな地域ということが関係しているようだ。宇野千代の「人形師 天狗屋久吉」にはこう書かれている。

〈徳島というところは、蜂須賀さまのお触れでな、人形芝居ただ一つで、三里四方、歌舞伎その他の興行物一切ご法度というので、もう何でも彼でも人形芝居一点張りでござりましてな。こういう在所の方まで、それは毎日のように箱廻しがやって来ておりました。〉

ここでいう「箱廻し」は箱に人形を数体入れてやって来て、一人で人形を遣いながら義太夫を語る街頭の一人人形芝居のこと。ときには三味線がつくこともあるが、一人でこなう大道芸である。この人形遣いは人形芝居一座に所属していることが多く、おおきな祭りや催しでは皆があつまって、小屋できちんと人形芝居もやる。

その人形芝居一座⇔箱廻しという道筋に重なりつつも、微妙にずれているのが「三番叟まわし」で、こちらは人形が家々を訪れて、竈を払い、家々の繁栄を予祝する。



娯楽というより祈祷である。中内さんが師匠から受け継いだ「三番叟まわし」は、人形を四体つかう。千歳・翁・三番叟とえびすである。最初の三体で、いわゆる三番叟を舞ったあと、えびすを舞わす。翁などの三体は非常に儀式性が高い。それに対して、えびすはずっと庶民的で、鯛を釣るという姿が、直感的に福々しさを感じさせる。

辻本さんによれば、大道芸としての箱まわしは、一時期、ものすごく盛んだったが、急速に衰えた。それに対して「三番叟まわし」は細々とだが最後まで残った。

「阿波木偶箱まわし」というのは、この祈祷芸・門付け芸としての「三番叟まわし」と、娯楽として街頭で演じる大道芸としての「箱まわし」を統一する言葉として用いている。つまり人形芝居は全国に分布しているが、人形を大道で、あるいは門付けして舞わすという徳島県の伝統をつなげていきたいという決意表明でもあるのだろう。

◆むつみ祭と眉山園

さて、雨対策も十分にのぞんだ9月21日、曇ってはいたが、雨雲はわずかに徳島を逸れた。おかげで公園にいっぱい露店がならぶなかで、すべての演芸を滞りなく行うことができた。我々をはるばる東京から、筑豊大介さんは九州から出かけた甲斐もあった。会館のなかでは数十人しか見られないから。

もっともその翌日の眉山園は大雨だった。もともと室内の計画ではあったが、来園者は予定より少なかったかもしれない。猿まわしも私たちも演芸を見せたが、主役は障がい者たちの車人形ならぬ「車イス人形」だった。乙女文楽と同様の頭の動かし方で、これだと使い手が少し頭をうごかせば人形も表情が出せる。これも彼らが指導に通っているとのこと。人権啓発から出発し、文化財となったいまも人権を忘れない彼らの姿勢に、私も襟を正す思いだった。